



Title	チュウガタシロカネグモの網にいたハエ, イトカメムシ, およびゴミグモの一種の網にいたアリ
Author(s)	野口, 大介
Citation	長崎県生物学会誌, 86, pp.35-36; 2020
Issue Date	2020-06-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/40135">http://hdl.handle.net/10069/40135</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-09-27T01:06:11Z

# チュウガタシロカネグモの網にいたハエ, イトカメムシ, およびゴミグモの一種の網にいたアリ

野口 大介

Fly and stilt bug in *Leucauge blanda* (Araneae: Tetragnathidae) web, and ant in trashline orbweaver web

Daisuke NOGUCHI<sup>1)</sup>

**Abstract:** I report herein that the cases of fly, stilt bug, and ant in web of two spiders, long-jawed orbweaver *Leucauge blanda* (Araneae: Tetragnathidae) and trashline orbweaver *Cyclosa* sp. (Araneae: Araneidae). Insects those were supposed to be *Sepsis monostigma* (Diptera: Sepsidae) were captured in the web of *L. blanda*. On another web of *L. blanda*, an insect that was supposed to be *Yemma exilis* (Heteroptera: Berytidae) stayed. An ant supposed to be *Paratrechina longicornis* (Hymenoptera: Formicidae) was found in a detritus stabilimentum of *Cyclosa* sp.

**Key words:** Araneae, Araneidae, Berytidae, Diptera, Formicidae, Heteroptera, *Leucauge blanda*, Sepsidae, Tetragnathidae

著者は、チュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda* の網に捕まっていたハエ、留まっていたカメムシ、およびゴミグモの一種の網にかかっていたアリの観察したので報告する。

チュウガタシロカネグモは本州、四国、九州、南西諸島、台湾、韓国、中国に分布し、平地から里山の森林、草原に生息し、成虫の出現期は5~10月である(小野・緒方 2018)。池田(2019)を参照したところ、このクモの食性に関する情報がなかったため捕食について観察した。

筆者は2020年3月12日、ソテツの植栽においてチュウガタシロカネグモが網にかかっていた昆虫を捕食しているのを見つけた(図1)。観察した場所は長崎県長崎市文教町1-14(北緯32度47分11秒, 東経129度51分52秒)である。捕食されていた昆虫は、翅の先端近くに1黒斑があることからハエ目ツヤホソバエ科の一種であるヒトテンツヤホソバエ *Sepsis monostigma* ではないかと思われた。

すぐそばの別のチュウガタシロカネグモ個体の網には、カメムシ目イトカメムシ科の一種であるイトカメムシ *Yemma exilis* ではないかと思われる昆虫が留まっているのも観察した(図2)。

Kohno and Hirose (1997) は、植物食と考えられるイトカメムシがアブラムシ科の一種ワタアブラムシ

*Aphis gossypii* やアザミウマ目の一種ミナミキイロアザミウマ *Thrips palmi* の捕食者でもあることを報告している。筆者の観察では、イトカメムシと思われる昆虫はチュウガタシロカネグモの網の上にクモからは少し離れて静止しており、互いに捕食・被食の関係にはなさそうであった。クモの網に捕まった昆虫を捕食してきた労働寄生者なのかもしれない。

Vašiček et al. (2018) は地中海盆地の北と東およびカルパチア盆地に分布するイトカメムシ科の一種 *Metacanthus annulosus* が、タナゴモ科のクモの棚網で見つかる arachnophile (日本語になっていない単語のようであるが訳すれば好蜘蛛性となるだろう) を報告している。筆者の観察がイトカメムシと思われる昆虫の労働寄生としての「好蜘蛛性」を示すものだとすれば興味深い。詳細は不明である。

4月8日には、同所のツツジと建物の中にいたゴミムシの一種の網のゴミリボンに捕まっていたアメイロアリ属の一種ヒメナガアメイロアリ *Paratrechina longicornis* と思われるアリを採取した(図3)。標本は筆者が保管している。

ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* の餌にはハエ目に次いでハチ目が多い(Baba 2003)ことから、アリがゴミグモの一種の網から見つかることはそれほど珍しくないと考えられる。



図1. チュウガタシロカネグモとその網に捕まっていたヒトテンツヤホソバエと思われる餌。



図2. チュウガタシロカネグモの網に留まっていたイトカメムシと思われる昆虫。



図3. ゴミムシの一種のゴミリボンから見つかったヒメナガアメイロアリと思われるアリ。

## 謝 辞

昆虫種の簡易的な写真による同定に際し、ハエとイトカメムシについては深沢勇太氏、アリについては丸山宗利博士よりご教示をいただいたことに厚く感謝申し上げます。

## 文 献

- Baba, Y. 2003. Testing for the effect of detritus stabilization on foraging success in *Cyclosa octotuberculata* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnologica*, 52(1): 1-3.
- 池田博明 2019. クモ生理生態辞典 2019, <http://spider.art.coocan.jp/studycenter/Dic11.html> (2020年4月20日確認).
- Kohno, K., Hirose, Y. 1997. The stilt bug *Yemma exilis* (Heteroptera: Berytidae) as a predator of *Aphis gossypii* (Homoptera: Aphididae) and *Thrips palmi* (Thysanoptera: Thripidae) on eggplant, *Applied Entomology and Zoology*, 32(2): 406-409.
- 小野展嗣・緒方清人 2018. 日本産クモ類生態図鑑 自然史と多様性. pp. xiii + 713, 東海大学出版. 平塚.
- Vašíček, M., Cunev, J., Kment, P. 2018. The first record of the arachnophile stilt bug *Metacanthus annulosus* (Hemiptera: Heteroptera: Berytidae) in the Czech Republic, and its rediscovery in Slovakia. *Klapalekiana*, 54: 123-130.



第49回大会より